

### 3 茶農薬展示ほ調査基準

#### 【病 害】

##### 1 輪斑病

1) 供試茶園

品種「やぶきた」の茶園で行う。

2) 散布時期

二番茶、または三番茶の摘採作業直後（保護剤）～3日以内（治療効果のある剤）に散布する。

3) 調査方法

最終散布の14日目前後に一定面積内の発病葉数を調査し、1㎡当たりの発病葉数と対照薬剤に対する割合を算出する。なお、調査面積は、病害の発生程度により適宜変更する。

4) 調査結果

(㎡当たり)

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	発病葉数	対照区比率 (%)	葉害
展 示 区						
対 照 区					100	

##### 2 新梢枯死症

本症は、輪斑病菌が萌芽から開葉期にかけて、包葉などがとれたときにできる傷口から感染し、新梢が枯死する。

1) 供試茶園

品種「やぶきた」の茶園で行う。

2) 散布時期

秋芽の1葉期と3葉期の体系散布、若しくは試験条件による。

3) 調査方法

最終散布の約40～50日後に1㎡当たりの発症本数を各区3ヵ所調査し、対象薬剤に対する割合を算出する。なお、調査面積は、病害の発生程度により適宜変更する。

4) 調査結果

(㎡当たり)

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	発病本数	対照区比率 (%)	葉害
展 示 区						
対 照 区					100	

##### 3 炭疽病

1) 供試茶園

品種「やぶきた」の茶園で行う。

2) 散布時期

0.5～1葉期及びその7日後の体系散布、若しくは試験条件による。または、0.5～1葉期の1回散布。

### 3) 調査方法

最終散布の約20日前後に1 m<sup>2</sup>当たりの発病葉数を各区3ヵ所調査し、対象薬剤に対する割合を算出する。なお、調査面積は、病害の発生程度により適宜変更する。

### 4) 調査結果

(m<sup>2</sup>当たり)

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	発病葉数	対照区比率 (%)	薬害
展 示 区						
対 照 区					100	

## 4 もち病

### 1) 供試茶園

品種は問わない。

### 2) 散布時期

0.5葉期及びその7日後の体系散布、若しくは試験条件による。または、0.5～1葉期の1回散布。

### 3) 調査方法

最終散布の約14日後に1 m<sup>2</sup>当たりの発病葉数を各区3ヵ所調査し、対象薬剤に対する割合を算出する。なお、調査面積は、病害の発生程度により適宜変更する。

### 4) 調査結果

(m<sup>2</sup>当たり)

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	発病葉数	対照区比率 (%)	薬害
展 示 区						
対 照 区					100	

## 5 網もち病

### 1) 供試茶園

品種は問わないが、できれば「やぶきた」が望ましい。

### 2) 散布時期

秋芽の0.5～1葉期及び3葉期の体系による2回散布(但し、供試薬剤の試験条件による)。

### 3) 調査方法

最終散布の60～70日後に1 m<sup>2</sup>当たりの発病葉数を各区3ヵ所調査し、対象薬剤に対する割合を算出する。なお、調査面積は、病害の発生程度により適宜変更する。

### 4) 調査結果

(m<sup>2</sup>当たり)

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	発病葉数	対照区比率 (%)	薬害
展 示 区						
対 照 区					100	

## 【虫 害】

### 1 ハマキ類（チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）

1) 供試茶園

品種は問わない。

2) 散布時期

チャノホソガ：卵～若齢幼虫期に散布する。

チャノコカクモンハマキ：若齢幼虫発生期に散布する。

チャハマキ：若齢幼虫発生期に散布する。

3) 調査方法

散布5～10日後に各区1㎡当たり3ヵ所について、全巻葉数を調査する。また、巻葉数50葉について生死虫数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	調査日	巻葉数	虫 数			薬 害
					生	死	計	
展 示 区								
対 照 区								

### 2 チャノミドリヒメヨコバイ

1) 供試茶園

品種は問わない。

2) 散布時期

開葉期（一・二・三番茶期及び秋芽期）に散布する。

3) 調査方法

散布前及び散布5日後に、たたき落とし法により、成・幼虫の生息密度を調査（3ヵ所）する。また、散布10～15日後に3ヵ所について枠（25×20cm）を用いて枠摘みし、被害芽数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	生 息 虫 数		被害芽数 (3ヵ所) 計	薬 害
			散布前	5日後		
展 示 区						
対 照 区						

### 3 チャノキイロアザミウマ

1) 供試茶園

品種は問わない。

2) 散布時期

開葉期（一・二・三番茶期及び秋芽期）に散布する。

3) 調査方法

散布前及び散布7日後に、たたき落とし法により、成・幼虫の生息密度を調査（3箇所）する。また、散布10～15日後に3箇所について枠（25×20cm）を用いて枠摘みし、被害芽数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	生 息 虫 数		被害芽数 (3箇所) 計	薬 害
			散布前	5日後		
展 示 区						
対 照 区						

4 クワシロカイガラムシ

1) 供試茶園

品種は問わない。

2) 散布時期

幼虫発生期（第1・2・3若齢幼虫期）に散布する。

3) 調査方法

散布10～15日後に、雄まゆの付着を無・少・中・多・甚に別けて観察する。また、できれば1区から3枝を選び、100頭について死虫数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	雄 ま ゆ 付 着 数					死虫数 (3枝)	薬 害
			無	少	中	多	甚		
展 示 区									
対 照 区									

5 チャノナガサビダニ

1) 供試茶園

品種は問わないが、できれば「やぶきた」が望ましい。

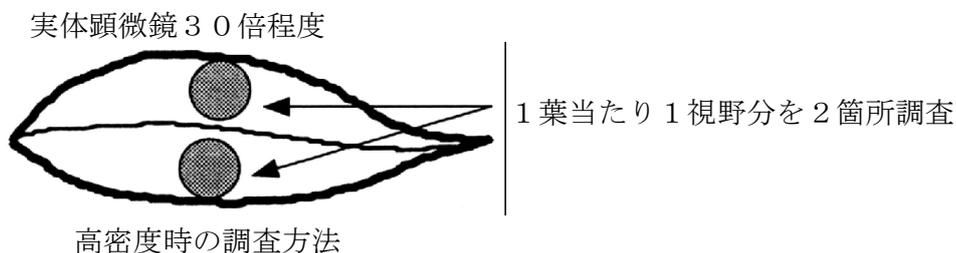
2) 散布時期

秋芽の発生時。

3) 調査方法

散布前及び散布7日後、14日後に各区からやや硬化した新葉を20枚採取し、実体顕微鏡（30倍程度）で葉裏の生息数を数える。

密度が高いときは、葉裏の葉身中央部の中肋に接しない部分（各葉2箇所）について、同様に実体顕微鏡（30倍程度）で1視野当たりの生息虫数を調査する（図参照）。



4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	生 息 虫 数			対照区比率 (%)	薬 害
			散布前	7日後	14日後		
展 示 区							
対 照 区						100	

## 6 チャノホコリダニ

### 1) 供試茶園

品種は問わないが、できれば「やぶきた」が望ましい。

### 2) 散布時期

秋芽の発生時。

### 3) 調査方法

散布前及び散布7日後、14日後に各区から任意に20芽を採取し、上位の展開葉1～2葉について実体顕微鏡（25～30倍程度）で、葉裏の生息数を数える（調査法はチャノナガサビダニに準じる）。

### 4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	生 息 虫 数			対照区比率 (%)	薬 害
			散布前	7 日後	14日後		
展 示 区							
対 照 区						100	

## 7 ハスモンヨトウ

### 1) 供試茶園

品種は問わない。

### 2) 散布時期

試験場、病害虫防除・肥料検査センター等のフェロモントラップの誘殺数を参考に秋芽で実施する。

### 3) 調査方法

散布前及び散布7日後に、一定面積内の被害芽数を調査し、1㎡当たりの被害芽数で算出する。

### 4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	被害芽数/㎡		対照区比率 (%)	薬 害
			散布前	7 日後		
展 示 区						
対 照 区					100	

## 8 カンザワハダニ

### 1) 供試茶園

品種は問わない。

### 2) 散布時期

薬剤の特性を考慮した上で散布時期を決定し、散布時の茶芽のステージを明記する。

### 3) 調査方法

散布前及び散布7日後、14日後、21日後に各区から任意に20葉を採取し、実体顕微鏡下で、葉裏の生息数を数える。なお、発生が少ない場合には適宜調査葉数を増やす。

また、複数回散布の場合は最終散布7日後の調査等を追加する。

### 4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	生 息 虫 数				対 照 区 比率(%)	薬 害
			散布前	7日後	14日後	21日後		
展 示 区								
対 照 区						100		

## 9 マダラカサハラハムシ

- 1) 供試茶園 品種は問わない
- 2) 散布時期 秋芽萌芽期
- 3) 調査方法 第2葉開葉期（散布後10日後頃）に各区3ヶ所で20cm×20cm枠内の被害芽数を調査し、1㎡当たりの被害芽数で算出する。なお、発生が局所的なので、調査ヶ所は発生している場所を選ぶ。
- 4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	被害芽数/㎡		対照区比率 (%)	薬 害
			散布前	10日後		
展 示 区						
対 照 区					100	

## 10 チャトゲコナジラミ

- 1) 供試茶園 品種は問わない
- 2) 散布時期 若齢幼虫（1～2齢）発生期に散布する（薬剤特性等により変更可能）
- 3) 調査方法 散布前および散布21日後に各区調査葉40枚を任意に採取し、実体顕微鏡下で発育態別に寄生虫数・羽化済脱皮殻数を調査する。  
密度が高いときは、葉裏の葉身中央部の中肋に接しない部分（各葉2ヶ所）について、同様に実体顕微鏡で1視野当たりの生育虫数を調査する（※）。  
※チャノナガサビダニの調査方法を参考にする。
- 4) 調査結果

区 別	農薬名	散布量/10a	寄生虫数/40葉		対照区比率 (%)	薬害
			散布前	10日後		
展 示 区			卵	卵		
			若齢	若齢		
			老齢	老齢		
			脱皮殻数	脱皮殻数		
			合計	合計		
対 照 区			卵	卵	100	
			若齢	若齢		
			老齢	老齢		
			脱皮殻数	脱皮殻数		
			合計	合計		

【茶病害虫発生程度基準】

ア 輪斑病

程 度	1 m <sup>2</sup> 当たりの病葉数
無	0
少	1 ~ 10
中	11 ~ 50
多	51 ~ 200
甚	201以上

イ 炭疽病

程 度	1 m <sup>2</sup> 当たりの病葉数
無	0
少	1 ~ 10
中	11 ~ 50
多	51 ~ 200
甚	201以上

ウ もち病、網もち病

程 度	1 m <sup>2</sup> 当たりの病葉数
無	0
少	1 ~ 20
中	21 ~ 100
多	101 ~ 300
甚	301以上

エ コカクモンハマキ、チャハマキ

程 度	1 m <sup>2</sup> 当たりの巻葉数
無	0
少	1 ~ 10
中	11 ~ 30
多	31 ~ 50
甚	51以上

オ チャノホソガ

程 度	1 m <sup>2</sup> 当たりの巻葉数
無	0
少	1 ~ 30
中	31 ~ 100
多	101 ~ 250
甚	251以上

カ チャノミドリヒメヨコバイ

程 度	被害芽率 (%)
無	0
少	1 ~ 5
中	6 ~ 15
多	16 ~ 30
甚	31以上

キ カンザワハダニ

程 度	寄生葉率 (%)
無	0
少	1 ~ 10
中	11 ~ 30
多	31 ~ 70
甚	71以上

ク チャノキイロアザミウマ

程 度	3カ所当たりたたき落とし虫数
無	0
少	1 ~ 15
中	16 ~ 30
多	31 ~ 45
甚	46以上